



原小だより

～つよく 正しく 朗らかに～

11月号

令和5年(2023年)

11月27日

宇部市立原小学校



平和について考えつながら



6年生が11月1日、2日に広島へ修学旅行に行きました。まず広島平和記念公園で平和セレモニーを行いました。折り鶴集会で地域の方と全校児童で折った鶴、地域の方からたくさん届けられた折り鶴を捧げました。6年生が平和の塔の前で心を込めて訴えたメッセージは以下の通りです。(一部省略)

「1945年8月6日午前8時15分、この広島に原子爆弾が落とされました。私たちは平和学習をきっかけに、原爆の恐ろしさと平和や命の大切さを学びました。原爆は一瞬で多くの命を奪い、今でも放射能を受けたことで苦しんでいる人がたくさんいます。日本では戦争が終わって今年で77年がたちましたが、被害にあわれた方々の心から悲しみが消えることはありません。しかし、今でもウクライナで戦争が続き、アフリカではきれいな水を手に入れるのにとっても苦勞し、学校で勉強できない子どもたちもたくさんいます。そんな中、私たちはたくさんの人たちに支えられ、おいしいご飯が食べられます。学校で楽しく勉強ができます。その有難さをかみしめ、私たちは戦争や核兵器の恐ろしさや平和や命の大切さを未来に受け継いでいきます。私たちは二度と戦争の過ちを繰り返すことなく、世界が平和になることを願っています。」

この後、心を込めて「ハナミズキ」を合唱しました。たくさんの観光客や外国人の方が足を止めて真剣に見ておられました。この後、6年生は広島平和記念資料館で被爆体験伝承講話を聴きました。「被爆者の新井俊一郎さん」という方の被爆体験を渡部公友さんから話していただきました。一人の方の話を聴いても苦しくなる中で、原爆で被爆した15万人以上もの方のことを考えると、想像もつかない大きな悲しみ、苦しみを感ぜずにいられませんでした。しかし、残念なことに今も戦争や紛争で多くの命が奪われています。戦争は絶対にあってはならない、そして核兵器が使われるようなことは二度とあってはならないのです。私たちにできることは、過去に起こったことを、こうして勉強して考えることではないでしょうか。自分さえ良ければいい、自分には関係ないと無関心でいることがもう一度戦争を引き起こしてしまうことにつながるのではないのでしょうか。

折り鶴集会を通して、地域の方と全校児童で平和について考えたこと、地域の方から集まった多数の折り鶴に地域の方のあたたかい気持ちを感じたこと、平和メッセージを聴いてくれた海外の人たちと言葉が通じなくても平和への考えを共有できたことなど、たくさんの方と平和について考え、そして心がつながることができました。

大きなことはできなくても、まずはあたりまえの生活が送られていることに感謝し、自分のまわりにいるたくさんの方の多様な考え方を受け入れながら、思いやりのある言葉を使ってぽかぽか温かい気持ちになれるような日々を学校でも家庭でも、地域でも、過ごしていきましょう。

